

# パラゴラ

昭和三十九年三月十五日  
昭和三十九年三月二十五日  
印刷  
發行  
□季刊



## 第八号

齋	荻	板	熊	田	安	結	島	小	深	津	棟	丸	尾
藤	野	倉	沢	中	西	城	崎	堀	尾	村	方	山	崎
玉	彰	鞆	復	克	冬	哀	敏	杏	須	秀	志	一	
男	久	音	六	己	衛	果	樹	奴	子	夫	功	薰	雄

再 会

田 中 克 己

二十何年前わたしはスマトラにゐて

アブといふ少年を使つてゐた

アブはバタク族でイスラムに囲まれて

キリスト教を信じる少年だつた

わたしは五十何歳になつてこのごろ時々

アブを思ひ出す

インドネシアにも喪乱があり

アブは生きてゐるかしら

わたしはたびたび死ぬ目に会ひながら

いまだに生きてゐておまへを懐ふ

いつかおまへに会ふ日が来る

アブよアブよそれを信じてゐるだらうね

編集委員

齋藤 玉男  
丸山 薫  
板倉 鞆音  
荻野 彰久

編集後記

をたれているのを見かけた。川  
の魚も動きたらしい。

毎朝、小鳥の声で目がさめる  
欄間からさすうす明りの中でヒ  
バリ、ノジコ、メジロなどが轉  
っている。  
芋河岸まで行ってみたら、チ  
ヨットコイ・チヨットコイと向  
う岸の藪でコジュッケイが呼ん  
でいた。

箆桶の寝蓋をあけて、コーヒ  
いを飲んでいるころには、鶯も  
いい季節である。

ぼつぼつ鳴きだす。  
斎藤先生カクシヤク。丸山さ  
ん風邪。荻野さん多忙。

ハチをつれて公園へ散歩にい  
く。いつの間にか、サザンカが  
いつものことながら、山口玄  
君の奔走に負うところが多い、  
ツバキに代っている。

「お城した」に舟をとめて糸  
万謝。(板倉)

パアゴラ (第八号)

編集発行人 荻野彰久

発行所 東京都文京区富士前町七三

パアゴラ社 (電話大塚九四〇〇)

昭和三十九年三月二十五日印刷  
昭和三十九年三月二十五日発行

印刷所 基督教印刷株式会社

頒価 一〇〇円